こどもの夢　大人の思い　　（メルマガ 2019 年 11 月号原稿）

11 月 4 日、川崎市子ども夢パークでは、「こどもゆめ横丁 2019」が開催されました。前夜の雨で、幾分ぬかるみはありましたが、晴れ渡った秋空の下、子どもたちの生き生きした活動を見ることができました。

今年の活動は、子どもたちの「横丁をもっと盛り上げたい」の気持ちから、昨年以上に子どもたちの意見や発想が取り込まれたものになりました。具体的には、「お店を出す参加」だけでなく、横丁全体の盛り上がりを考え、「つくり上げていく過程への参加」が大切にされ、何度も話し合いが重ねられました。

子どもたちは保護者の皆さんへ「子どもたちの力でやらせてほしい」と語り、まさに子ども主体の、子どもの意見が十分反映された横丁になっていました。

豚汁、綿菓子、おでん、お汁粉、スープ、ウインナーなど様々な食べ物。的あてや輪投げなどのゲーム。他にも数多くありますが、これらお店に一生懸命取り組む姿や大きな声で呼び込みをする姿は感動的でした。

敷地の区割り、お店建物の建設、食品衛生講習の受講、そして当日販売する品物や食べ物づくりなど、子どもたちにとっては大きな苦労はあったでしょうが、それを乗り越えてきた子どもたちの表情は、自信と喜び、満足感、達成感があふれるものでした。子どもたちの活躍、それを支えて来られたスタッフの皆さんに心から拍手を送りたい気持ちです。そして、こうした活動ができる「子ども夢パーク」が本市にあることを誇りに感じました。

学校での教育活動は、法令や学習指導要領に基づいて、意図的・計画的に行われるものですので、自ずと教師の構想や指示が前面に出てしまい、子どもたちの自由で豊かな発想が限定されがちです。しかし、ゆめ横丁に見られるように、子どもには「自分の力でやってみたい」「自分の発想を実現したい」「友達と一緒に楽しみたい」といった、子どもならではの楽しみがあるものです。

子どもには、子どもなりのすばらしい力があります。大人が良かれと思ってかえって手を出し過ぎてしまい、子どもが本当に楽しみたいことを奪ってしまっては、ある意味成長の芽を摘んでしまうことにもなりかねないと思います。

大人の子どもへの思いは、大人としての価値判断のみに縛られることなく、子どもの夢を理解し応援する姿勢が大切である、と改めて感じた一日でした。（N.W）